

クリニカルラダーの到達レベルに即した研修の考え方

1. 新人・レベルⅠ～4

必：必須研修 特：特別研修 \*単位取得に必要な研修

	新人	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
到達レベル	1. 社会人・職業人としての自覚、責任が持てる 2. 看護基準・手順に添った安全で安楽な看護技術が提供できる 3. 日常の看護を振り返り、自己に必要な学習に取り組める	1. かるうじて及第点の業務をこなすことができるレベル 2. 社会人として自覚し行動する	1. 一通りの技術を習得し、通常の業務の中で判断に伴う看護実践を一人で行う 2. 済生会の組織人として行動する	1. 臨床での出来事を分析的にとらえることができる 2. 済生会の組織人としての行動のモデルを示す	1. その領域で考えられる最高の看護実践の展開ができる 2. 専門職業人、済生会の組織人として行動し、指導する
看護実践能力	・看護基準・手順に添った基本的看護技術を習得する 必：基礎看護技術 採血・注射、日常生活援助、ME機器管理 必：薬品管理 必：救急看護 必：呼吸管理 必：看護計画	・部署の一般的な疾患の患者について情報収集し、看護計画を立案することができる ・基本的な看護技術が安全に実施できる ・実施した看護の記録を残す *看護専門職として共通する知識・技術に関する研修 必：看護過程	・患者の個性を踏まえて、看護計画を立案し、状況変化に応じて対応することができる ・部署の一般的な疾患で入院中の患者の看護要約ができる *看護実践に活かせる研修 *看護研究 必：呼吸・循環フィジカルアセスメント	・患者の状態の変化を予測し、状況に合わせた看護過程の展開ができる ・看護者の倫理要綱に基づいた看護実践モデルを示すことができる *継続看護に関する研修 *家族看護、在宅看護	・多様なアプローチを用いて看護実践を行い、他スタッフの人的資源になる ・スタッフが実践した看護について評価し、フィードバックできる *専門領域の研修
マネジメント能力	・安全管理を理解した行動がとれる 必：医療安全管理体制 インシデントレポートの重要性 ・感染対策が理解できる 必：標準予防策、経路別感染、ごみの分別 ・部署においてメンバーの役割が理解できる 必：チームメンバーの役割	・マニュアルに沿って安全に業務を遂行できる ・優先順位を考え、1日の業務にかかる時間の管理をすることができる *安全に関する研修 必：メンバーシップ	・与えられた役割を理解し行動できる ・効果的、効率的な業務の時間管理ができる *医療事故発生時の対応 必：リーダーシップⅠ	・リーダーとしてチーム全体の時間管理をする ・安全で効率的に業務を行うために、他のメンバーの役割モデルとして行動できる 必：事例分析（Pm-SHEL分析） 必：リーダーシップⅡ	・安全文化の醸成を推進し、スタッフへ指導することができる ・チーム医療の推進に向けて調整的役割を発揮する *メディアエーション *組織や経営に関する研修 ・組織分析
教育・研修能力	・看護基準・手順やマニュアルに沿って、知識・技術を習得する 特：がん患者の看護	・院内の教育プログラムや病棟の勉強会に参加する *院内研修・院外研修 特：がん患者の看護	・自身に不足している知識や技術を知り勉強会や研修会に積極的に参加する *新人指導に関する研修 特：がん患者の看護	・自身のキャリアアップのために、院内・院外の研修に積極的に参加する ・研究成果を臨床で応用することができる ・学生や後輩の指導に関わる *教育に関する研修 特：がん患者の看護	・常にリフレクションし行動することができる ・スタッフの成長を支援する ・研究を推進する *キャリア開発に関する研修 ・目標管理 必：人材育成に関する研修 ・コーチング ・面接技法 特：がん患者の看護
人間関係能力	・社会人・専門職業人としての接遇を身につける 必：接遇 ・倫理綱領にある、看護の目的を理解する 必：倫理綱領	・人間関係の基本的姿勢がわかり行動する ・社会人・専門職業人としてのマナーを身につけて行動する 必：倫理事例検討	・患者及び患者の周囲の人々との人間関係を構築することができる ・自施設の組織人としての役割を自覚し行動する 必：倫理に関する研修	・倫理的意思決定に関する知識を持ち行動する ・済生会の組織人としての役割を自覚し行動する 必：医療倫理事例分析（4分割法・倫理的行動の4つの要素）	・患者中心のチーム医療の調整者として組織横断的に人間関係を築く ・済生会の組織人として行動するとともに、スタッフを指導する 必：医療倫理事例分析手法（多職種と共に行なう4分割法）

\* 診療報酬に係る必須研修の「医療安全2回/年」「感染2回/年」は単位研修としない